



八卦台

No.7

令和2年11月1日
男鹿市立潟西中学校

1年間の折り返し。目標達成に向け、決意も新たに後期を元気にスタート！ 前期の反省を踏まえ、「学」「挑」「関」の更なる向上を目指す！

校長 米屋 孝明

本校は2学期制ですが、10月9日に前期が終了しました。コロナ禍にあって、行事の縮小、延期、中止などありましたが、今できることを考え、工夫や協力をし、体育祭、潟中祭、中総体など、前期の学校内外の大きな行事を、多くの成果を得て終えることができました。これもひとえに、これまでの保護者・地域の皆様のご支援のお陰と深く感謝申し上げます。前期までで、1年生は97日、2・3年生は98日登校したことになります。

10月9日（金）の前期終業式で、全校生徒に話した内容を紹介します。本校は学校教育目標を「自らの手で 未来を拓く生徒の育成」とし、「学ぶ」「挑む」「関わる」の三つの視点から「目指す生徒像」を設定しています。生徒には、この三つの視点から「前期に成長したところ」と「後期に頑張りたいところ」を話しました。

1. 前期を振り返って「生徒が成長したと感じるところ」について

- (1) 「学ぶ」
 - じっくり課題に向かい、自力解決しようと取り組んでいる。
 - 自分の言葉で、考えを発表できる。
- (2) 「挑む」
 - 体育祭・潟中祭や縦割り班活動を通して、絆や責任感等が深まった。
 - 部活動や体験活動を通して、感謝の心や粘り強さが育った。
- (3) 「関わる」
 - 自分から、礼儀正しく挨拶している。
 - 協力して課題解決しようと努力している。

2. 「後期に頑張りたいところ」について

- (1) 「学ぶ」
 - 目標を明確にして、学び続ける。
 - 今、学んでいることと、将来とのつながりを意識して取り組む。
 - 授業を大切にする。
- (2) 「挑む」
 - 不得意なことや苦手なことから逃げない。
- (3) 「関わる」
 - 「関わるよさ」を感じて、自分から話したり、行動したりする。
 - 「話し合い」を通して、考えを深め合う。



後期も、教職員一同、心を込めて生徒を育てていく所存です。今後とも保護者・地域の皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

「後期に向けての抱負」から

◇苦手な教科を中心に何回もまとめたり、練習問題をやったりして復習したいです。人前で話すことがとても恥ずかしくてできれば避けたいと思っていました。でも何度も経験すれば強くなると思うので、どんどん発表できるように頑張りたいと思います。
(1年 佐藤 七海)



◇一つ目は勉強です。自分に合う勉強を見付け、授業で習った部分を何回でも練習し、ポイントを自分なりにノートにまとめるなど、家庭学習をレベルアップしたいです。二つ目は、部活動です。次の春・夏の大会では悔しい思いをしないように、もう少しきつい練習をしていきたいと思っています。後期は今まで以上に自分に厳しくするという覚悟をもって、生活していきたいです。
(2年 佐藤 瀧太郎)



◇ここまでの6ヶ月間でたくさんのことを学び、たくさんの人に触れ、成長できたように感じています。志望校に向けて今以上に勉強すること、共に歩んでいける仲間を大切にすること、関わってくれるすべての人に感謝すること、これらすることを忘れずに学校生活を過ごしていきたいと思っています。また、高校受験に向けて不撓不屈の精神をもって一生懸命頑張っていきたいと思っています。
(3年 佐藤 悠乃)



◇ 修学旅行 (10/1~3)

5月に東京方面を予定していましたが、行き先を秋田県内に変更して10月に実施しました。旅行中、3密の回避、消毒、手洗い、検温など細心の注意を払い、秋田の魅力再発見、秋田の経済の活性化への貢献をコンセプトとし、県内を北から南へ縦断する二泊三日の行程で行いました。仲間との絆が深まり、体験学習やインタビュー等を通し、働く意味や生き方などについて、考えを深めることができました。保護者の皆様のご理解とご協力のお陰で実施できたことに、深く感謝申し上げます。



<角館武家屋敷の班別研修>



<いなにわうどん体験>



<川連漆器 沈金・絵巻体験>



<きりたんぼ作り>

学校運営協議会小・中合同研修 (9/29)

コミュニティ・スクールの充実を図る目的で、
 潟西中学校と美里小学校の学校運営協議会委員
 の間で合同研修会が行われました。

秋田県教育庁生涯学習課の川田貴之先生を講
 師にお招きし、学校運営協議会の役割や他校の
 特色ある取組などのお話を伺いました。

その後の演習では「鷓木」「野石」「五里合」
 地区に分かれ、「学校と地域と一緒にやれること
 ・やってきたこと」「今後も、学校と地域が連携
 できること」などについて、成果と課題等につ
 いてミニ熟議を行いました。各地区で取り上げ
 た話題は次にとおりです。

- ・鷓木～「災害時の避難について」
- ・野石～「海岸のクリーンアップについて」
- ・五里合～「学校と地域の情報共有について」



▲川田先生の講話



▲野石地区の熟議

始動 後期生徒会！

後期生徒会の執行部を決定する役員選挙と立会演説
 会が10月6日に行われました。どの候補者、責任者
 も、自分の公約や応援演説を堂々と述べ、学校をリ
 ードするのにふさわしい立派な態度と演説内容でした。
 選挙後、生徒会役員や執行部員に決まった生徒は次
 のとおりです。

- 【会長】 嵯峨 蓮仁 (2年)
 【副会長】 鈴木 修斗 (2年) 嵯峨 叶夢 (2年)
 【書記】 佐藤 愛優 (2年) 越前 宙夢 (1年)
 【執行部員】 渡部 藍沙 (2年) 石川 神羽 (1年)
 嵯峨 心優 (1年) 杉本 実羽 (1年)
 渡部 美琴 (1年)

10月21日に行われた役員任命式では生徒会執
 行部員、学年委員、専門委員の呼名がありました。
 それに応える力強い返事から、生徒会活動に対する
 一人一人の強い意思を感じました。生徒総会では、
 後期スローガン「To The Future 進み続ける私たち
 GO GO GO GO-!」が紹介され、新会長 嵯峨蓮仁
 さんから「それぞれが抱えている壁を乗り越えて進
 化しようという思いを込めました。今まで先輩が築
 いてきた道を引き継ぎ、よりよい方向へ導いてい
 けるよう頑張ります。みなさんも一緒に頑張らま
 しょう。」と未来へ進む力強い決意が表明されました。



嵯峨 蓮仁さんの演説



本物の投票箱と記載台



意欲満々 生徒会執行部



スローガン発表

11月の行事予定

1	日	部活動休止日
2	月	学校安全点検日
3	火	文化の日
4	水	中央教育事務所指導主事計画訪問
6	金	薬物乱用防止教室(2、3年)⑥
9	月	Ⅲ期時間割開始 3年三者面談(～20日)
10	火	P T A 挨拶運動(6)(鷓木地区)
11	水	男鹿潟上南秋教科等研究会(午前授業)
12	木	男鹿潟上南秋地域生徒指導研究推進協 会感動体験発表会(市文化会館)
13	金	市小・中学校社会科作品展(～18日ハートピア)
15	日	部活動休止日
16	月	心電図検査(1年)、貧血検査(2年)
18	水	職員会議
20	金	スクール・カウンセラー来校日(7)
22	日	テスト前部活動休止期間～26日
23	月	勤労感謝の日
25	水	学校納金振替日 小中連携相互授業参観
26	木	男鹿市教育委員会指導主事学校訪問
27	金	後期中間テスト

地域合同防災訓練(10/20)

合同訓練は学校と地域が一体と
 なった取組として4年目となりま
 した。コロナ禍のため今年度は研
 修会は行わず、福米沢、土花地区
 の28名がグラウンドに避難し、
 生徒の誘導のもと、体育館玄関前
 で避難者の記名を行いました。

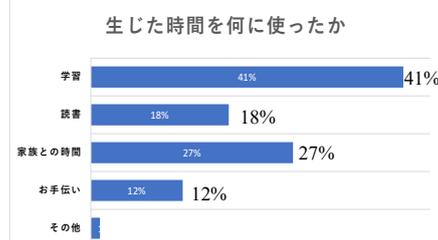
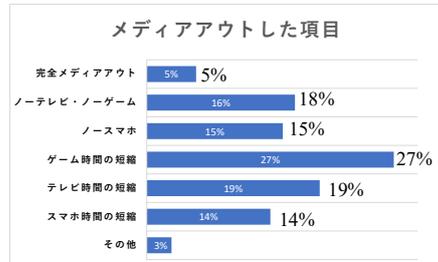


▲消毒、検温と受付

メディアアウトに挑む！！

諸調査の結果から、本校生徒の課題として、「メディアの使用時間が
 長い＝家庭での学習時間が短い」という実態があります。そのため、
 メディアに触れる時間をコントロールし、メディア漬けの生活を見直
 す目的で、メディアアウトデイを実施しました。今年で3年目になり
 ます。メディアアウトとは、テレビやゲーム、インターネットなどの
 電子メディアにふれないで過ごすことを言いますが、本校のメディア

アウトデイは電子メディアを
 完全に排除するものではなく、
 自分のペースに合わせて無理
 なく実施できるものです。夏
 休み中に潟中生全員が、自分
 自身で立てた計画に基づき、
 それぞれのメディアアウトに
 取り組みました。



増えていることも分かりました。「〇〇ができてよかった」「この取組を続けたい」など、
 肯定的な記述が多く見られ、この取組の有効性も確認できました。しかし、このことに継
 続して取り組んでいる家庭はごく少数のようで、メディアアウトの難しさを感じます。
 自分のペースに合わせて無理なくメディアアウトを継続して行うことが、家庭学習の習
 慣化や学習時間の増加、さらに、大切なものに気づききっかけになったり、自己を管理す
 る力を身に付けたりすることにつながります。今後もぜひチャレンジしてみてください。

【生徒の感想】

- ☆家族との時間が増え、いつもよりも会話が増えました。
- ☆時間の大切さが改めてわかりました。
- ☆久しぶりに父や祖母と、じっくり話すことができました。
- ☆普段できないことを、時間をかけしっかりと行いました。
- ☆掃除を祖母と一緒に棚を整理しました。きれいになりました。
- ☆ゲームをする時間が少ないと、学習時間が増えました。
- ☆普段のスマホの利用の仕方を見直すきっかけになりました。
- ☆勉強などに使う時間が多かったし、家族回らんもできました。
- ☆テレビを見る時間が減って、読書がたくさんできました。
- ☆周りをより多く見回すことができ、勉強に集中して効率のよ
い一日を過ごすことができました。

【保護者の感想】

- 集中して勉強できたようでした。手伝いを積極的に
してくれたので、大変助かりました。
- 誘惑の多い世の中で、どれだけ自分の目標に向かって頑張
るか見守っていかたいです。
- 何も言わなくても、「何か手伝うことある？」と言って、手
伝ってくれて、とても助かりました。
- 1ヶ月にせめて1日でもこのような日があるといいなと思
うので、できれば継続してほしいです。
- 家族みんなで取り組まないといけない問題だと思いました。

メディアアウトに取り組むことで生じた時間は、学習時
 間に充てた生徒が41%に上りました。また、家族との時
 間に充てることで、親子の会話や家族と共に過ごす時間が
 増えていることも分かりました。「〇〇ができてよかった」「この取組を続けたい」など、
 肯定的な記述が多く見られ、この取組の有効性も確認できました。しかし、このことに継
 続して取り組んでいる家庭はごく少数のようで、メディアアウトの難しさを感じます。
 自分のペースに合わせて無理なくメディアアウトを継続して行うことが、家庭学習の習
 慣化や学習時間の増加、さらに、大切なものに気づききっかけになったり、自己を管理す
 る力を身に付けたりすることにつながります。今後もぜひチャレンジしてみてください。